

# 人権さんだ

6 月号

令和5年(2023)

No.531

男女共同参画の社会

《問い合わせ》  
共生社会部福祉共生室人権共生推進課  
TEL : 559-5148 FAX : 563-7776  
E-mail : jinken\_u@city.sanda.lg.jp



男女共同参画社会を  
めざして

男女が共に性別役割に制約されることなく社会で活動でき、そして利益も責任も共に負うことで、男女共同参画社会が実現します。そして、私たち一人ひとりには、能力や特性を存分に発揮した、個性豊かな人生を送れます。

今号では、土肥伊都子さんに、男女の性差にこだわらない、あるべき社会の姿について様々な事例をもとにお話を伺いました。



土肥 伊都子さん

【プロフィール】

神戸松蔭女子学院大学

人間科学部心理学科教授

平成27(2015)年5月から

三田市男女共同参画推進委員会会長

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

## 最近の大学での男女共同参画の取り組みは？

キャリア教育、ジェンダー教育（※1）が大学では重視されるようになり、これらに関連した授業科目も増え、男女とも熱心に授業をうけています。中学校や高校で家庭科が男女共修となったことが影響しているのかもしれない。

また近年、いくつかの大学では、教員の採用に女性枠を設けるようになり、女性の大学教員への期待が高まっています。女性の学長も増えつつあり、トップが変わると大学全体が変わるでしょう。その一方で、大学の教員同士の夫婦でも、女性ばかりが家事育児をしているケースが少なくないように見受けられます。

※1 性別にとらわれず、すべての人の人権を尊重する態度を育む教育

## 学生や若い世代に向けて心配なことはありますか？

この3年間、コロナ禍により大学でも友達ができず、欠々に授業にきてもおしやべりができない学生がいます。気を遣いながら浅く

表面的な人間関係を築いている感じがします。

SNSが流行っていて、見た目を気にして見栄えよくして、「いいね」を求めて満足しているようです。自分に関心がある情報だけに触れ、視野が狭くなっているいかも心配です。

現在は様々な働き方も用意されつつあり、男女の役割分担の在り方も多様になりつつあります。学生たちには、もっと視野を広げてほしいです。

## 今の三田市の状況からどのような課題が見えますか？

国勢調査（令和2年）によると三田市は全国・兵庫県と比較して、女性の就労率が低くなっています。（図1）

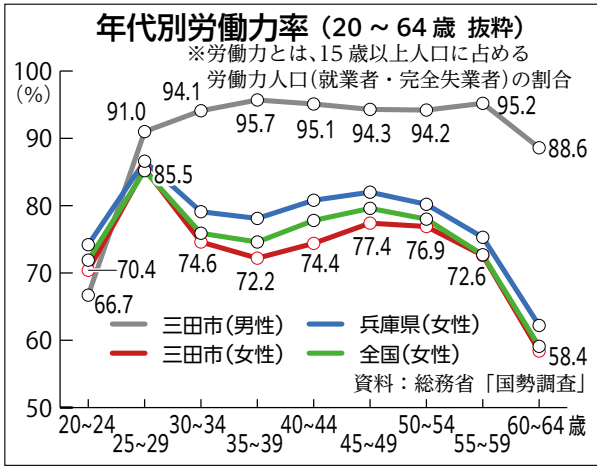
また、三田市男女共同参画市民意識調査（令和4年3月）からは、「家事の役割分担では主に女性が行っている」との回答がとて高いことがわかりました。家庭の中の女性の家事時間が減らないまま外で働くことは、大変重荷であると考えます。

夫婦共働きの家庭であれば、妻が外での仕事を増やす分、夫は家

事分担を増やすべきでしょう。しかし現実の男女の家事分担は偏りがあります。マスメディアでも、家事に忙しすぎる妻のことは問題にしても、その夫に関しては「仕事が忙しく家事はできない」の一言で片づけられています。

ただし、時代は少しずつ変化しています。私の夫は、育児休業どころか育児のための時短勤務なども全くしませんでした。しかし息子たちは数か月ずつ育児をとって、出産後すぐに夫婦で育児を分担しています。自分は育児休業を取るべきだと思っているが、まわりは育児休業など取るべきではないと考えているはずだと予想し、育児を取らない選択をする人もいます。心理学では「多元的

図1



無知」といって、自分が考えているようには周りの人は考えているはずはない、と勝手に思い込む傾向があるのですが、勇気をもって育児をとってほしいですね。

## 今後の三田市の取り組みに期待することは？

『第6次三田市男女共同参画計画』の基本目標の中に「健康で安全・安心に暮らせる社会の実現」があります。DVや児童虐待などの困難を抱えた人々が安心して暮らせる支援として、女性にとって働きやすい環境を整えることで男性にとっても働きやすい環境を作ることができそうです。

また、DVや児童虐待などは、発生してからではなく発生する前に、どう防止すればよいかの啓発、教育に力を注いでほしいです。

### 『第6次三田市男女共同参画計画』

#### 基本目標

- 1 男女共同参画社会の実現
- 2 女性がいきいきと輝き活躍できる社会の実現
- 3 健康で安全・安心に暮らせる社会の実現



市のホームページより



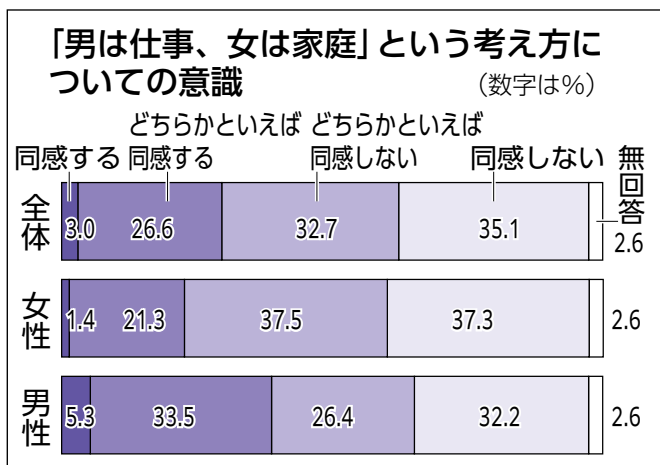
# 私たちにとって、あるべき社会の姿とは？

男女共同参画社会というと、女性の問題であると思われる人も少なくないと思います。

しかし、社会での男女の固定的な役割によって様々な困難を被っているのは女性だけではなく男性もわかりです。男女が対立することなく協働して、男女共同参画社会の在り方を考え作り直していく社会になってほしいです。そのためにも、もっとも身近な家庭の中から、男女共同参画を進めていくことを望みます。日本の家庭は、世界的にみても性別役割分業の傾向がかなり強いです。男性が働き手・女性が専業主婦という高度経済成長期の構図が、現在も基本的にはあまり変わらずにあるように思います。結婚の有無にかかわらず、女性には経済的自立を果たし、自分が稼いだお金を自分で使う喜びを味わってほしいです。男性には基本的な衣食住のスキルを身に付け生活の自立をし、生涯のうちで自分がケアされる分に相当するケアを、他の人に対してしてほしいです。



図2



市が令和4年3月に実施した男女共同参画市民意識調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方に「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」の合計割合は67.8%で、性別の役割分担意識の解消は進んでいます。

(図2)



## 編集後記

「自らの意思で人生を決める社会」

### 市民啓発講座のご案内

【日 時】 6月25日(日) 14時～15時30分  
 【場 所】 まちづくり協働センター 講座室(6階)  
 【講 演】 家族の中にもジェンダーが～無意識の思い込みの炙り出し～  
 【講演者】 土肥 伊都子さん (神戸松蔭女子学院大学教授)  
 右記二次元コードを読み取ってお申込みください。  
<https://logoform.jp/form/hyogo-sanda/254336>  
 (問い合わせ先) 人権共生推進課  
 TEL:559-5148 FAX:563-7776 E-mail:jinken\_u@city.sanda.lg.jp

一方で、実際の社会では「男性優遇」だと感じる人が男女合わせて64.8%となっており、具体的に地域社会での課題を市民全体で共有し、その解決に向けて取り組まなければなりません。また、地域社会だけでなく家庭内の役割分担を進めていかなければならないでしょう。

私たちは男女間をはじめあらゆる暴力の根絶に努め、貧困・高齢・障害などの生きづらさをかかえた人々と共に、自らの意思で人生を決める社会をめざしたいものです。

### 令和4年度 人権標語・ポスター受賞作品

富士中学校 1年(前年度)  
篠倉 瑚来さん

手を取り合って 繋ぐ平和

一人じゃない  
その一言が  
プレセント

すずかけ台小学校 2年  
中野 萌笑さん (前年度)

### くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063  
 月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約)  
 TEL 559-5062 FAX 559-5063  
 月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)  
 ※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員会による定例人権相談(予約)  
 TEL 559-5148 FAX 563-7776  
 《次回相談日》6月22日(木) 13時～16時

「笑顔の傘」



ゆりのき台中学校1年(前年度)  
坂田 妃穂さん



# 人と人との つながりを大切に

武庫小学校 P T A 竹板 絵梨花さん

## 出会い

「あなた、顔色悪いわね」

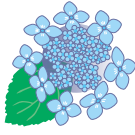
そう声を掛けられたのは3年前、三田市へ引越しをしてきて3か月が経った頃でした。

新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言が出されている中、私たち夫婦は当時5歳、3歳、1歳、0歳3か月の4人の子どもと一緒に三田市へ越してきました。知人もいないこの土地で、宣言中はなるべく家から出ない生活を送っていました。宣言後も出かけるのは公園や近くのスーパーくらいでした。ある日、子どもと一緒に近くのスーパーへ買い物に行っていた時に、



ある女性に声をかけられました。夫の異動で慌ただしく三田へ越してきて、私はこれまで勤めていた仕事を辞め、一日中家の中にいながら行う荷解きと育児とでストレスが大きく体調を崩していた時でした。声を掛けられたとき、久しぶりに家族以外の大人と会話をし、涙が出るくらい嬉しかったのを覚えています。

## 交流を重ねて



その後、ストレスからの不眠で体調が悪くなりました。コロナ禍で外出する機会もなく、ただ家の中で子どもと過ごして、息をつく間もなく毎日が過ぎていきました。起き上がることさえ辛く感じていました。そして、離れて暮らす互いの両親に手伝ってもらったり、子どもが幼稚園に通うようになりその間に休んだり、夫、幼稚園の先生、友人、主治医の先生など、たくさんの周囲の人の支えで体調は徐々に戻り、再度仕事に就くことができました。体調が悪いときには気が付きませんでした、私のことを心配してくれている人は周囲にたくさんいました。そして、その間にも、声をかけてくださった女性とは交流があり、家に訪ねに来ていただいたり、私のご自宅へ伺ったりもしました。その女性ご自身の子育ての経験やお孫さんのことなど、たくさん話を聞かせてくださり、私もたくさん相談し、親しくさせてもらっています。

## 新たなつながり



今は、訪問看護の仕事をしていて、在宅で過ごす人のお手伝いをしています。「ありがとう、あなたに会うと元気をもらえるわ」と言ってもらえることがあり、とても嬉しく、私があの時女性からい

ただいた勇氣と優しさを今度はお返ししている気持ちになります。またそれと同時に、私も元気をもらっています。そして、昨年度は小学校のPTAの役員もしました。子どものためにと動いてくださる地域の方が多くおられることを知り、地域の方々に支えられて暮らしている実感が得られました。ひとりひとりの優しさが重なって、みんなが幸せを感じられるように、私も困った人がいれば助けたいと思っています。また、子どもたちにも自分を、そして周囲の人を大切にできるようにと伝えていきたいと思っています。

## 私が考える人権とは

マザーテレサは「愛の反対は憎しみではなく無関心だ」という言葉を残しています。人権は難しく考えることではなく日常にあるもので、すぐ隣にいる誰かに関心をもつことだと思っています。人と人とのつながりを大切にして支え合う、そんな三田市を私たちがつくっていききたいです。

